

2010年 医療統計実習コラム

4月13日 まずカイより始めよ

土曜日、天気もよく絶好のお花見日和であったにも関わらず、築地のがん研究センターで肝胆膵グループの会議。朝から恵子先生とともに新幹線ででかける。今日は珍しく午後からの会議なので少し早めに築地に行ってすしを食べることに決まっている。東京駅から[すし大]に直行し2000円のあやめを握ってもらう。築地は決して値段は安くはないのだが、ワンランク(あるいはツーランク)上のものが食べられる。この日も江戸前のコハダや穴子などを堪能する。ついでに鰹節を買ってがん研究センターへ。WT1とやらの臨床試験の話がメインだったはずが、PDNECの調査が意外と手間取り、臨床試験の計画に不足している情報を簡単な調査で調べるだけのはずだったものが、なんだかPDNECの大々的な調査になってしまいそうだ。やれやれ。2時過ぎからようやく胆管がんに対するWT1ペプチドワクチンの臨床試験の話。ほんとうに効くのか、どのくらい効くのかまったくの未知数であり(膵がんでよく効いたといっている先生もいたが、午前中の講義を聞いたほうがいいのかもしいかな)、先生はとっても不安である。

4月20日 過ちは人の性、改めるは名誉ある業

先週末、友人夫妻に誘われて恵子先生と宮川町の「京おどり」を見に行ってきた。祇園の「都おどり」は二度ほど行ったことがあるが京おどりは始めてである。お茶席で鶴屋吉信の美味しいお菓子を食べ午後6部の部を見る。全7景とのことだが、最後の宮川町の芸妓さん舞妓さんが勢ぞろいしたおどりは圧巻で、あー春が来た、という感じであった。終演後、友人夫妻と錦へ。鳥豊の鴨コース、平野、井上のおそうざい、打田の漬物、三木鶏卵の出汁巻き、魚力の鱧のてんぷら、伊予又の鯖寿司などなどを買って帰る。夕食。お酒は飛良泉(秋田)、鳳凰美田(栃木)、大鬼(京都)を飲み比べる。朝掘り竹の子をオーブンで丸焼きにしたものがちよっぴりえぐみがあったもののこれまた春らしくておいしかった。

4月27日 生兵法は怪我のもと

土曜日、医療統計・CRCコース合同お花見会を開催した。無論桜の花である。恵子先生と錦市場の中央米穀でおにぎり28個、打田でりんご大根の漬物と小なすの漬物、畑野軒で柏餅15個、大丸で平野のお惣菜セット15個、正起屋でねぎ串とつくね各14本を買って帰り秘密の場所へ。桜は満開でそれはそれはよかったのだが、土曜は晴れたものの気温が低く、時折北風が吹いて寒いなの。それでも総勢15名+早川家と大森家のちびっこ3名で大いに盛り上がる。お酒はめいめい好きなものを持ち寄りなので、うちはよなよなエール2缶といただきものの神亀純米。例によって「これでわたしの右に出るものはいない」話で盛り上がるが、ドイツ語ができるとか韓国語を習っているだのの自慢には、じゃあそれで自己紹介しろ、などと当然のように突込みが入る。去年は雨で集会室でのお花見だったのでよしとしよう。

5月11日 過ぎたるは猶及ばざるがごとし

2月上旬、いろいろな理由があつて南インドのマニパル大学にいつてきた。日本は真冬、インドは30度を超える暑さ、食べ物、水などなどから体調を壊さないかと心配だったが杞憂だった。(http://wwwsoc.nii.ac.jp/jbs/newsletter/all/kaiho102.pdf を参照) インド料理というかカレーがとてもおいしかった。特に「ビリヤニ」というお米の料理がうまかったので、日本でも食べられないかといういろいろ調べた結果、河原町三条に「ケララ」という南インド料理のお店があり、「ビリヤニ」もあるらしい。絶対おいしいから、と恵子先生とランチを食べにでかけた。恵子先生はランチ、先生はチキンビリヤニを頼む。残念なことにケララのビリヤニはマニパルで食べたものとは違いカレーチャーハンだった。これはこれでおいしかったのだが、マニパルのビリヤニをもう一度食べたいものである。しかし、もう一度インドに行くことを思うと…。

5月18日 曲学阿世

月曜は東京出張。いつも困るのは弁当をどうするか。昨今の駅弁のコストパフォーマンスの悪さには辟易しているの、京都からのときはJR伊勢丹の地下でお昼を買うことにしている。さて昨日は奮発して侘屋古曆堂の「ふわふわたまごの鶏カツ弁当」(1050円)を買ってみた。先生は鶏好きなので期待して新幹線の車中で弁当を使う。ただ鶏カツがご飯にのっかっているのではなく、ご飯には鶏そぼろとふわふわたまご、味付けキャベツが。お昼だし、これから仕事なのでまさかビールを飲むわけにもいかなかったが、この弁当、まずビールとともに鶏カツを食べ、そぼろご飯はそれだけで(いやもう一本ビールを飲んでもかまわないのだが)食べるのが正当な食べ方であろう。帰日も遅かったので、今度は東京駅のグランスタで弁当を物色する。グランスタも飽きてきたので、無難なところで帰路はあんかけ炒飯。

6月1日 神はサイコロ遊びをするか?

先々週、立川に移転した統計数理研究所で応用統計学会と日本計量生物学会の年会有り、5/20~22と行ってきた。統計数理研究所は先生が京大に来る前に勤めていたところだが、当時は広尾という日本人がマイノリティであるお洒落な場所にあったが、昨年夏に移転し、それはそれはすばらしい建物となっていた。少々難点は、東京駅から立川まで50分かかると、立川駅から1駅ではあるがモノレールに乗って、モノレールの駅からまた7~8分歩かないといけないこと、新開発地区のためお昼を食べる場所がほとんどない点である。

先生は立川に泊まったので、20日の夜は関係者数人で立川駅そばの地酒居酒屋に入り、途中で飲めない2人を帰して、12時前まで3人でかなり飲んだ。地酒がすべて1合500円、となっていたので致し方ない。飲みすぎだったのはいうまでもないが、次の日開始時刻が9時半なのでがんばって起きて行く。21日は寒水先生、寒水先生の前の准教授だった大森先生と飲みに行くつもりだったが、寒水先生は実家に行くというので大森先生とカレーを食べに行く。2月のインド行き以来インドカレーに火がついてしまった。野菜、シーフード、ほうれん草とチキンのカレー3種を頼み、ビール、ナンとともに堪能した。

6月8日 The Wizard of Odds

土曜日はオープンキャンパス、みなさんご苦勞様。今年は医療統計が担当分野だったが、みなさんの協力のおかげで無事に終了することができた。昨年はブタインフルエンザ騒ぎで医療疫学の山崎先生はたいへんだったが、今年はそんな騒ぎもなく(ブタインフル、どこにいったんだらう)100名の参加がありほっとしている。このところオープンキャンパスは芝蘭会館で開催していたが、昨年のように山内ホールだと机といすを地下から運んで準備し、また片づけるということをしなないけないので、講堂で開催するのもいいかもしれない。

オープンキャンパスの担当、しかも今年は設立10周年ということで医療統計Tシャツを作ってみた。教室員のアイデアでデザインを決め恵子先生に「サイコロとしまりす」の御紋を描いてもらい、なかなかいいできだと満足しているのであるが、どうだったらうか。

先生は午前の司会ですっかりくたびれてしまい、午後はもうよれよれ。さて、土曜は夕方から打ち上げ。恵子先生、寒水先生の奥さん、早川くん一家も参加して宴会のはじまり。レストラン十両からお造り定食、唐揚げ定食、出し巻き定食を頼み、よなよなエール、ワイン、日本酒で盛り上がる。日本酒は早川家からの差し入れの「鳳凰美田」。これがまたもったいなくらいの大吟醸雫酒斗ビン取りとわからない人はわからないだろうが知っている人には垂涎もののしろもの。この鳳凰美田というネーミングも究極奥義みたいでよろしい。みんなで飲んで食べて騒いで、寒水家、早川家差し入れのデザートも平らげて9時過ぎに解散した。

6月15日 有意症 Significantosis

土曜は大阪大学と合同の「観察研究の統計的方法」がはじまり、中之島センターに行ってきた。2コマ分の準備をしなければならず、2週間ほどかかりきりだった。2コマしゃべるとさすがにくたびれる。鈴木さん、高田さんと京阪で戻り、三条で別れてぶらぶら歩いて帰る。恵子先生がご飯の準備をして待っていてくれるはずだが、案の定まだ帰ってきてない。しかたないので、シャワーを浴びて冷蔵庫を探すとナスがあったので、とりあえず焼きナスを作って待つ。7時半過ぎに恵子先生が帰宅、そら豆、お刺身4点盛り合わせ、かわはぎの薄造り、焼き鳥、おそうざいなどがやってきた。そら豆をゆで、白和えと焼き鳥で乾杯。最初はドイツのビール。そら豆はやや遊び気味だったものの、味は悪くなかった。昨日は洋食だったので、今日は日本酒モード。先週買った滋賀は北島酒造の「御代栄 吟吹雪生原酒 純米吟醸小川酵母無ろ過」。先生は北島酒造の「北島」というお酒が好きなので、そういうと北島酒造のおちゃんが「あー好みがありました」といって出してくれたのがこのお酒。おっちゃんの見立てどおり、甘み、酸味が利いていて刺身によく合うお酒で気に入った。来週は大阪大学の上坂先生が担当なので、先生の講義はなく気が楽であるが少々心配している。

6月22日 Nothing Can Be Done Without Hope and Confidence

先週も土曜は大阪大学中之島センターで「観察研究の統計的方法」の講義と演習。先週は先生の講義はないはずだったのだが、講義もせずに1日聞いているのはもったいないの

で、午後からロジスティック回帰の講義をすることにした。午前中は大阪大学の上坂先生が講義して、2階のレストランに食事に行くと、なんとそこには徳本くんが。「どうしたの今日は?」と聞くと、なんでも大阪大学が催している別な講演会か何かが中之島センターであり、そちらに出席しているとのこと。一同びっくりでした。

それにしても土曜の朝9時半から夕方5時までの授業は疲れる。7時過ぎに帰宅し、今日は恵子先生はがんセンター時代の知り合いの国頭先生の講演会があるとかで大阪に行っているのでひとりで夕食の準備。先生の好物ではあるが恵子先生の嫌いなもの、というのはなかなか食卓に上がりにくく、代表的なものが納豆とモツなのだが、こういうものは恵子先生不在のときにこっそり食べるに限る。というわけで今晚はこてっちゃん。こてっちゃんとキャベツ、ねぎを炒めてよなよなエールを開ける。講義した後はビールがうまいが、よなよなはさらにうまいぞ。おつぎは中トロの刺身を手巻きずしにして、こちらはいただきものの開運「花の香」という会員にしか手に入らないというお酒。と、恵子先生からメールが入り、淀屋橋で京阪特急に乗った、何も食べてないので急いで帰る。これはなにか準備しておけということなのだろうと、あわててなす、きゅうり、みょうがの塩もみを作り、帰宅を待つ。いつの間にか日本がオランダに負けているのはなぜだ。

オランダは1996年に国際計量生物学会があり、アムステルダムに行ってきた。路面電車が走っていてきれいな街、という印象。オランダ料理というものはろくなものがなかったが、なんとといってもパン、ハム、チーズの類がとてつもなくうまい、スーパーで食料を買い込んでホテルで食事するほどだった。ビールもハイネケンはあなどれないし、アムステルがうまかった。まあそんなオランダに負けてもしかたないかと妙に納得する。ちなみに、小学校の教科書に載っていた、子どもが堤防にいたずらして小さい穴を開けたら、そこから水が漏れだして穴が少しずつ大きくなり、びっくりした子どもは腕にシャツを巻きつけて穴に突っ込み、一晩中耐えてオランダを洪水から守った、という話しはオランダ人はしらなかった。

9時半ごろに恵子先生ご帰宅。そら豆をゆで、取っておいた鳥のから揚げといか、なす、隠元の煮物、塩もみを用意し、再びよなよなで乾杯。とはいうものの先生は先にはじめていたのですぐにお腹一杯になってしまう。そうそうにバーボンに切り替えて、本を読んだりゲームをしたりで夜は更けていく。

6月29日 Crisscross

先週、水曜にまた立川の統計数理研究所(統数研)に行ってきた。昼過ぎに立川着、前回行ったときによさそうだったそば屋にいつてみる。雨がけっこう降っていたので、濡れずに行ける駅ビル内のどこかで食事しようか、とも思ったが初心貫徹(といっても駅から5分も歩かないのだが)[しえもと]へ。店名からしてそば屋っぽくないが、ホームページによると店主はもとフレンチのシェフだったらしい。先生は無類のそば好きなのだが、京都にはなかなかおいしいそば屋がなく、常々残念に思っており、東京に行ったときにはできるだけそば、天ぷら、鮎といった江戸前のもを食べることにしている。

ランチは丼セットが売りのようで、店内みなセットを頼んでいるが、せいろ大盛りを注文する。大盛りでもボリュームはそんなにないが、そばの香りがしてつるつると入ってしまう。食べ終えてから、大盛りではなくせいろをおかわりすれば良かったと思ったが、後の祭り。次回はそうしよう。ま、これで 1000 円なので満足する。統数研の斜め向かいに立川市役所が移転して駅からバスが出ているというので、バスに乗って統数研へ。一応、研究打ち合わせを藤田先生、椿先生、大学院生の藤井くんとして、3時半に統数研を出る。

今度は九段下のコンベンション・リンケージで 2012 年に神戸で開催する国際計量生物学会 IBC2012 の打ち合わせ。前会長丹後先生、庶務担当山岡先生、プログラム委員長大橋先生、財務委員長のイーピーエス厳社長。コンベンション・リンケージは木原先生に紹介してもらったコンベンション会社で医学系の学会を引き受けることが多いらしい。そのせいか、ちょっと派手目なポスターや企画を出してくるが、この学会は質素な学会であることを強調する。

少し早く終わったのでいつもなら京都に飛んで帰るのだが、このところ東京の家についていないので、様子をみに帰ることにする。そうです、佐藤さん、足立区島根にあるマンションです。北千住で食料を買い都バスで島根町へ。3月末に来て以来なので2ヵ月半ぶり。いつもはそれでも月に一度くらいはきて泊まるのだが、新学期になってからなんだか忙しく、泊まる暇がなかった。案の定ほこりがたまっていて汚いのでそうじをする。

次の日は朝から築地へ。鮭を買って来い、と恵子先生から厳命を受けているので場外市場の鮭専門店へ。鮭も京都で買うのはしょっぱくていけない。5切れ1000円の甘塩と今日のかまがあったのでかまも4切れ買う。せっかく築地に来たので、場外の[すし大]で握りを食べる。10時半開店でまだ5分ほどあったのでしばし待ち、本日の入店第一号となる。朝昼兼用でおいしくいただき、唯一残念なのはここはにぎりに岩塩をのせたり、しょう油やつめを塗って出すので、こちらで好きなだけしょう油をつけて食べられない。中トロと穴子がうまかった。晩ご飯はご飯を炊いて、鮭かまを焼いて食べたのはいうまでもない。

7月6日 そしてだれもいなくなった

ドラクエが終わらない。ドラクエは1からずっとやっていて、初期のころは「復活の呪文」というものがあり、写し間違えたりしようものならだいぶ前の状況からはじめることになりたいへんだった。昔はドラクエ以外のゲームもやっていたのだが、PSになってくらいから3Dの格闘ゲームばかりとなりそういうゲームには興味がないので、今ではドラクエしかやらなくなってしまった。結局ドラクエの戦略にうまく踊らされているのだが、スーパーファミコンでないとだめとなるとスーフファミを、今度はPSで出るとなるとPS、次回はPS2だ、となるとPS2をと、ドラクエをやるためだけにゲーム機を新たに購入する羽目となっている。

ドラクエ8はPS2でキャラクターも平面から立体的になり、ちょっといつものドラクエとは違和感があったのだが、今度はDSでまた平面キャラよりとなり親しみやすくなつたものの、それでもDSを買わなければゲームができないのでDSを買った。ドラクエの楽しみは2種類あ

って、最初はともかくできるだけ早くラスボスを倒す。このため中ボスとも戦うときはいつも勝てるかどうかぎりぎりのレベルとなるので、たいがい最初は負けるのだが、まあせっかちな性分なのでしかたない。で、ラスボスを倒すと満足し、しばらくほおっておくのだが、しばらくすると2回目をやりたくなり、今度は2度目だしうろ覚えとはいえ多少は経過を覚えているので、余裕を持ってレベルも上げて楽しむ。これが例年のドラクエの楽しみ方で、気にいったドラクエだと3回目を楽しむときもあったのだが、なんとドラクエ9は終わらないのだ。

もちろんラスボスがいてそいつはとっくに倒したのだけれども、任天堂から定期的に「クエスト」と呼ばれる小ネタのストーリーが配信され、いつまでたっても終わらないし、そうはいつでもメインのストーリーは終わっているのが先が読めない。いくらなんでもドラクエ10の販売が決まれば終わることになるのだろうが、いつまで引っ張るつもりなのだろうか。現在は宝の地図というもので、洞窟を探検しよくわからないクエストをクリアしなければならないのだが、宝の地図のレベルが上がると地下の階数が増えてめんどくさいことはなほだしい。しかも職業レベルが99になるとレベルアップしなくなるので、転職するのだが、転職するとレベル1から始まるのでとうぜん強い敵がでてくるとすぐ死んでしまう。

もうあまりおもしろくないのでときどき思い出したようにDSを手にとってドラクエをはじめるのだが、そうすると新しいクエストが配信されていたりして結局いつまでもうまく踊らされている。ロトの装備はすべてそろったが(ロクサーヌから全部買えるじゃないか)、これからどうすればよいのだ。今回はわからない人にはまったくわからないネタでもうしわけない。

7月13日 だれかいますか?

週末、大学の同級生が集まり、江ノ島で一泊してきた。江ノ島だったのは幹事夫婦(ふたりとも同級生)が藤沢に住んでいるからで、3年ぶりに11人集まった。26人の小さなクラスで、けっこう仲もよく、いまでもときどき集まっている。まあみんな年を取っていいおっさん、おばさんになったものだが、髪が薄くなった、目が見えなくなった、なんて話ばかり。6時から会場の料理旅館恵比寿屋さんで宴会がはじまり、さすがに江ノ島名物という生しらす、あじの刺身はうまかった。東京駅の大丸に先生が愛好している秋田の酒「飛良泉(ひらいずみ)」がきていたので、大吟醸を一本とリカーズハセガワでバーボンの逸品ベイカーズを買ってもってきた。飛良泉は料理に合って非常にうまかったし、幹事も気を利かせて幻(というお酒)の純米大吟醸、出羽桜、八海山の純米吟醸をもってきてくれたので、なかなか豪華な宴会となった。部屋に戻り、バーボンやウイスキー、ビールなど好みのものを飲みながら、おっさん、おばさんたちの話はつきず、寝たのは1時半。朝ごはんは遅くしてくれといったのだが、早く帰るやつがいるからと7時半。寝てようかとも思ったが目が覚めてしまい、結局鰯の干物、あさりの味噌汁、つくだにのりなどで朝ご飯をたっぷり食べて昼過ぎに京都に帰ってきた。